

接触場面における日本語母語話者と中国人日本語学習者による

不同意表明

—フェイスの観点から—

王 艶

Brown&Levinson (1987) は、社会の成員は皆「ポジティブ・フェイス (positive face) : 良く評価されたい欲求」と「ネガティブ・フェイス (negative face) : 行動の自由と負担からの自由に対する基本的な欲求」という 2 つの基本欲求があるとしている。また、「不同意」は相手の意向に反する発話行為であり、相手のポジティブ・フェイスを脅かす恐れがあるため、コミュニケーションする際、対人関係への配慮が必要であるとしている。

しかし、発話者の配慮は必ず相手に認識・理解されるとは限らない。特に、異なる文化を背景とする場合、相手に伝わらず、悪い印象を与えることもある (野田 2012)。誤解を解くため、それぞれどのように自分と他者のフェイスを守るのかを解明する必要があると考えられる。

そこで、本研究は初対面の日本人母語話者 (JNS) と中国人日本語学習者 (CJL) を対象とし、ロールプレイとフォローアップ・インタビューによって、接触場面における JNS と CJL は不同意を表明する際、どのようにお互いのフェイスを配慮したかについて考察した。

その結果、CJL も JNS も聞き手のフェイスだけではなく、話し手のフェイス、双方のフェイスへの配慮が観察された。そのうち、JNS は相手のネガティブ・フェイス、CJL は相手のポジティブ・フェイスへの配慮がより多く観察された。また、CJL は圧倒的にポジティブ・フェイスへの配慮が多いのに対して、JNS はポジティブ・フェイスとネガティブ・フェイスへの配慮の均衡が比較的取れていることが分かった。